

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	りあん Atelier教室 (放デイ)		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 2日		～ 令和 8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 2日		～ 令和 8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	14	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様が安心感をもって通所を楽しみにしている。</li> <li>・好きなこと、得意なことをさらに深めていくアート療育プログラムになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画にとどまらず様々なアート体験を計画し、お子様の興味の幅を広げるようにしている。また、好きな活動で成功体験を増やし自己肯定感を高めている。</li> <li>・植物や自然事象の観察を通して豊かな感性をはぐくみ、見たり感じたりしたことをアート活動につなげている。</li> <li>・アート知識が豊富な職員が常勤している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館や博物館、ギャラリー等で本物を見たり、触れたりする機会をさらに充実させていく。</li> <li>・自然豊かな立地を利用して散歩や散策などを行い身心の安定をはかり、自然の素晴らしさについて体感できるようにしていく。</li> <li>・アートが将来的な職業に繋がる可能性も視野に入れ、関係機関と繋がっていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の活動に合わせた過ごしやすい活動空間になっている。アート材料や道具がすぐに手に取れる場所にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に集中出来るようにパーテーションを使い空間を仕切っている。</li> <li>・お子様がゆったりと休息できるスペースを作っている。</li> <li>・お子様一人一人が興味を寄せている世界を観察し、表現したい世界が形になっていくように教材や材料を提供している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余暇活動スペースをさらに充実させたり・カームダウンスペースを確保する。</li> <li>・専用の畑を確保し、物づくりの材料となる植物を多種多様に栽培できるようにする。お子様たちが栽培に関わる機会を増やしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の展示会を行って地域の方を招くなど、社会とのつながりを早い時期から経験する機会がある。</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様方の作品を商品化して販売を行う。収益はお子様方の活動、保護者様に還元、または寄付に使用する。</li> <li>・お金の管理について学ぶ。</li> <li>・作品展示の回数を増やしたり、地域の行事に参加したりする。</li> </ul>

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時対応の内容やその具体的な訓練計画について周知された内容が浸透していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知方法、周知内容の不十分さ。</li> <li>・働きかけの回数不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様参加型の引き渡し訓練等を計画して実施する。実施についてはあらかじめ面談時に知らせておく。</li> <li>・国民防災の日など意識づけしやすい日にラインや連絡帳で事業所の取り組みについて発信する。</li> <li>・非常時対応訓練を行った日は連絡帳だけではなく送迎時に口頭でも知らせる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所における家族支援 (ペアレントトレーニング等) について、その内容や利用方法が浸透していない。保護者に向けての周知の不十分さ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信方法や発信内容の不十分さ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談時に放課後等デイサービス事業所における家族支援の内容や利用方法を各ご家庭に合わせた形で説明する。事業所からも適宜お声掛けさせさせていただくことを予め知らせておく。</li> </ul>

3	・放課後児童クラブや児童館と交流するための働きかけが不足している。	・事業所としての意識づけの低さ。	・放課後等デイサービスガイドライン「地域社会への参加・インクルージョン」の内容について職員一人一人が再認識する。 ・事業所の行事に参加してもらうための方法を再検討し、有効な働きかけを行う。
---	-----------------------------------	------------------	---

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		りあんAtelier教室（放デイ）					公表日	令和8年 4月 20日	
		保護者数17名	回収数14名	回収率82.4%	利用児童数17名	回収数 14名			
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	3					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	1			カームダウンの部屋がある と更に良いと思います。	間取りの関係もあり、お部屋を準備することは難しいですが、パーテーションを使用して仕切ったり小さなデント等を利用して対応してきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14						
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	3					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14						
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	2		1			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	2					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1		5	利用日数が少なくわかりません。	実施予定や実施の様子は連絡帳やインスタグラム等で配信していきます。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14						
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	2	1	1			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11	1		2			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2	1	1			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14						
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	3	1	4	利用日数が少なくわかりません。	実施予定や実施の様子は連絡帳やインスタグラム等で配信していきます。		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12		1	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10			4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1		5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1		2	クガ、発熱など口頭ですぐに報告して下さって感謝しています。ですが、不安な時期があったのでその後の対応や流れ（面談の日程調整など）を施設側より提案があれば更に安心できたと思います。支援員さんを変えて話し合いを丁寧にして下さってありがとうございました。	ご家族の皆様が不安感を感じることのないように、より細やかな家族支援、突発的な時以外の定期的な面談を実施していきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14				お陰様で親子共に安心して通えています。具体的な取り組みが本人にとってもあっていると思っています。いつもありがとうございます。	お子様の日々の姿から小さな成長を見逃さずに認めていくことで、信頼関係を構築しさらなる安心とステップアップにつなげていけるように携わって参ります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14					
	29	事業所の支援に満足していますか。	13	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	りあんAtelier教室（放デイ）		職員数	4名	提出数	4名	提出率	100%	公表日	令和8年 4月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4							
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4							
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			毎日室内の消毒や掃除、ゴミの片づけを行いスタッフ同士でチェックしている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14							
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4							
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4							
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14			月1回の職員会議や毎日の振り返りの時間で意見交換をして業務改善に繋げている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4						今回が初めてなので結果を今後につなげていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4						研修内容が身に付いているか振り返りを行い確認する機会を作っていく。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4							
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4						書類が多いので保護者が把握できているか確認が必要。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4							
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			いつでも閲覧できる場所に掲示している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4							
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4							
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4							

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		活動内容やその手順、役割、準備について毎日確認する時間を設けている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		モニタリング前には職員会議を行い児童の見立てのすり合わせを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		直接支援に携わっている職員が必ず参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		送迎時に担任と協力体制を構築できるように情報交換を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		他事業所のイベントに作品出品を行っている。同系列事業所の児童と交流する機会（イベント）を年間4回以上行っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1		協議会等の催しの案内を閲覧したり掲示をしたりして情報を共有する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4				